

霧島山（えびの高原（いおうやま硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方气象台

硫黄山の南西側で7日以降確認されていた新たな噴気と熱異常域について、9日に現地調査を実施しました。

硫黄山の南西側で直径数m程度の小さな湯だまりと、この湯だまりから灰色の熱水が流出し、噴気が高さ10m程度上がっているのを確認しました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、小さな湯だまり及びその周辺で熱異常域を確認しました。

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき³⁾）に注意してください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1～3）

硫黄山の南西側（「霧島硫黄山2」観測点付近）で7日以降確認されていた新たな噴気と熱異常域について、9日に実施した現地調査では、硫黄山の南西側で直径数m程度の小さな湯だまりと、この湯だまりから灰色の熱水が流出し、噴気が高さ10m程度上がっているのを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、小さな湯だまり及びその周辺で熱異常域を確認しました。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 3) 霧島山では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）湯だまり付近の状況
韓国岳9合目から観測（上段：4月9日、下段：3月28日）
4月9日の観測で、硫黄山の南西側で直径数m程度の小さな湯だまり（上段図：赤点線）と、この湯だまりから灰色の熱水が流出し、噴気が高さ10m程度上がっているのを確認しました。

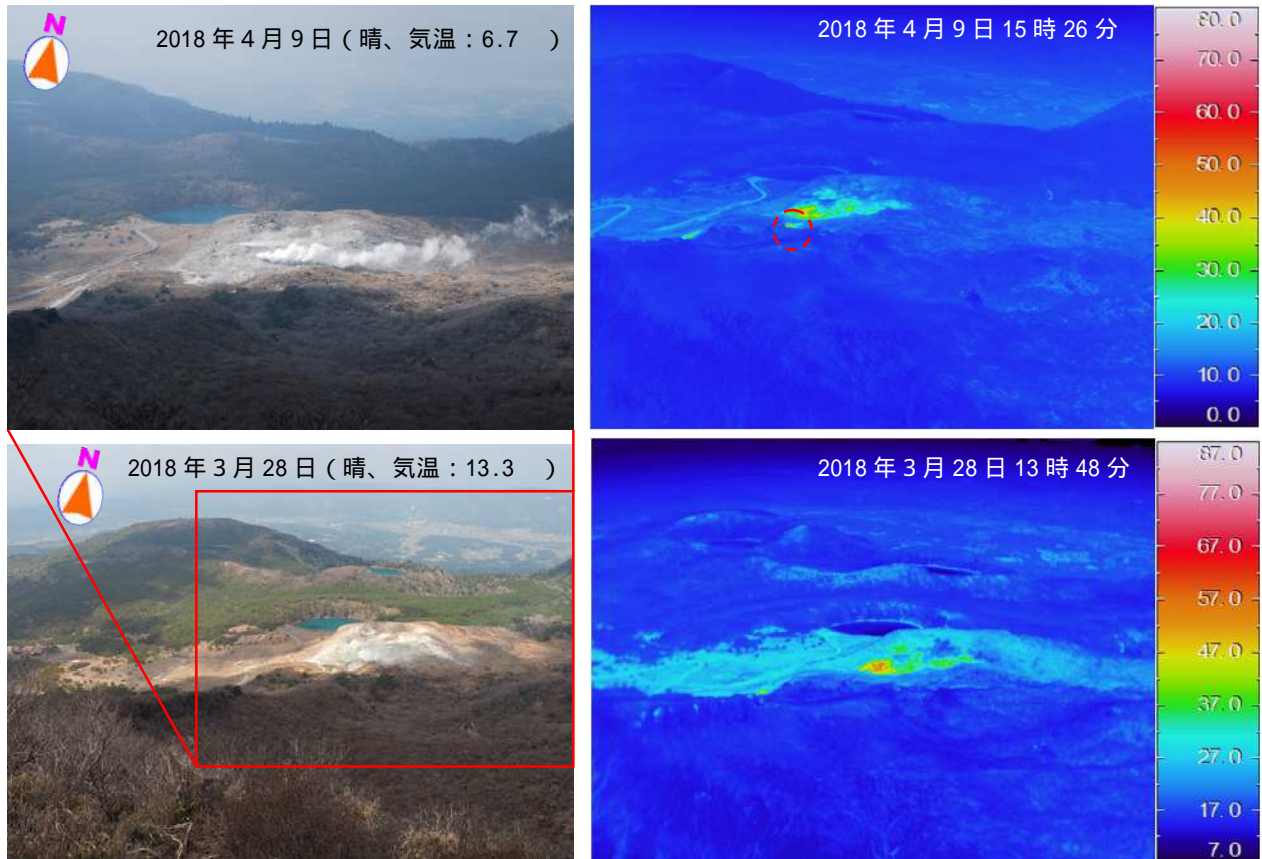


図 2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山南西斜面の状況
韓国岳 9 合目から観測（上段：4 月 9 日、下段：3 月 28 日）
赤外熱映像装置による観測では、小さな湯だまり及びその周辺（赤破線）で熱異常域を確認しました。

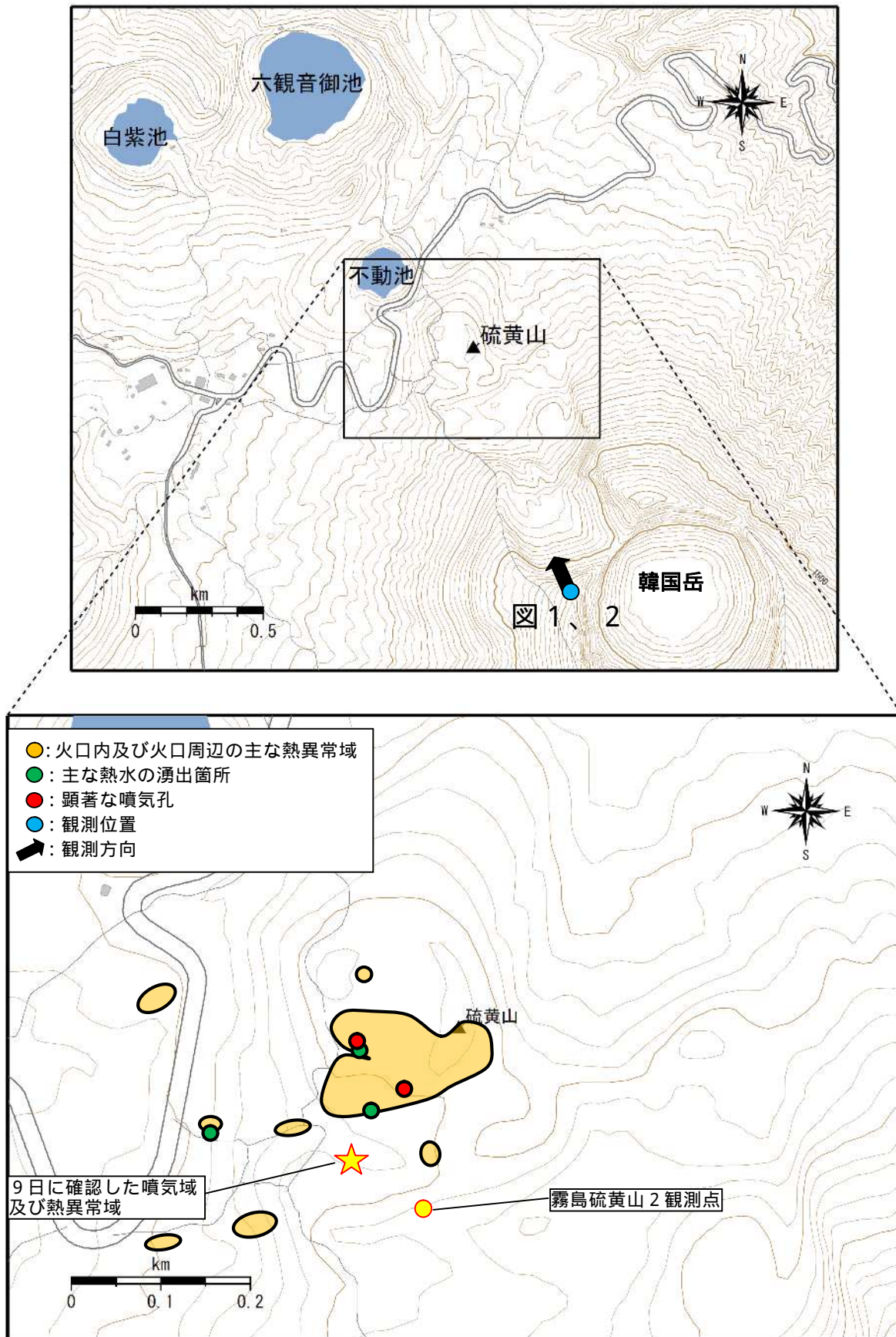


図 3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 主な噴気位置と霧島硫黄山 2 観測点